

## S01-1 「エピヌクレオソーム」の再構成に基づいた創薬技術開発

○梅原 崇史<sup>1,2</sup>

<sup>1</sup>理化学研, <sup>2</sup>JST さきがけ

エピジェネティクス研究は1995年頃から現在までの20年間で急速に進展し、個々のエピジェネティクス情報を制御する蛋白質群の発見とそれらの機能的役割の解明が進んだ。その一方、エピジェネティクス関連蛋白質によって制御されるエピゲノムについてはその精密な試験管内再構成が長らく技術的に困難だったため、生化学的な解析の多くは「エピジェネティクス修飾が不均一なクロマチン」や「ヒストンテイルの疑似基質としての修飾ペプチド」を用いて行われてきた。演者らは、エピゲノム創薬研究に資するプラットフォーム構築の一環として、エピジェネティックな翻訳後修飾を残基特異的に導入した「エピヌクレオソーム」の試験管内再構成技術を開発してきている。本発表では、これらの「エピヌクレオソーム」の調製技術に基づいた創薬基礎研究の応用例を紹介する。